

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 7 区分

【発行日】平成 25 年 6 月 20 日 (2013.6.20)

【公表番号】特表 2010-523445 (P2010-523445A)

【公表日】平成 22 年 7 月 15 日 (2010.7.15)

【年通号数】公開・登録公報 2010-028

【出願番号】特願 2010-503429 (P2010-503429)

【国際特許分類】

**B 6 6 B 3/00 (2006.01)**

【F I】

B 6 6 B 3/00 U

B 6 6 B 3/00 S

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 25 年 5 月 1 日 (2013.5.1)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 5 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 5 7】

図 5 は、エレベータ昇降路の全高  $s$  にわたって各速度プロファイル画定する本発明の様々な限界曲線のプロファイルの例を示す。曲線 5 1 は、エレベータ乗りがご 1 2 の現在の速度の弓形のプロファイルを示し、制動装置のトリガ限界曲線 5 2 と停止限界曲線 5 3 の下方に描かれている。制動装置のトリガ限界曲線 5 2 と停止限界曲線 5 3 は、それぞれ下端 5 6 と上端 5 7 で終端する。こうして、エレベータ乗りがご 1 2 は、通常モード及び点検モードでこれらの位置で停止する。これは、現実のリミットスイッチ又は点検用リミットスイッチを仮想的に置き換えることができることを意味する。現在の速度プロファイルの曲線 5 1 が制動装置のトリガ限界曲線 5 2 を超えると、制動装置がトリガされ、エレベータ乗りがごを減速させる。従って、現在の速度プロファイルの曲線 5 1 は、制動装置の停止限界曲線 5 3 を超えることはない。しかし、万が一超えた場合には、上記の曲線を囲む安全把持装置のトリガ限界曲線 5 4 と安全把持装置の停止限界曲線 5 5 が提供される。現在の速度プロファイルの曲線 5 1 が安全把持装置のトリガ限界曲線 5 4 を超えた場合、安全把持装置がトリガされ、エレベータ乗りがごは、安全把持装置の停止限界曲線 5 5 内で停止する。